

ならはみらい

“笑ふるタウン” みんなが集まる憩いの場に

「笑(えみ)ふるタウンならは」は、商業施設・交流施設、災害公営住宅や診療所などのさまざまな生活機能を集約した檜葉町の復興拠点です。

商業施設・交流施設では、檜葉町の方はもちろん、地域や世代を超え、みんなが集まる出会いと交流、そして憩いの場としての役割を担っています。

ヘブンアーティスト公演の様子「芸術文化を活用した被災地支援事業」@ここなら笑店街 中央広場



“ならはみらい”こんなことやってます！

“ならはみらい”
平成30年度の活動を紹介！

- “笑ふるタウン”の指定管理を町から受託…P.2、3
- “交流人口拡大事業”檜葉町に来てもらうきっかけづくり…P.4 他

一般社団法人ならはみらい

町の復興計画のもと平成26年6月末にまちづくり会社として設立。

「きずな・安心・活力」この3つの基本理念のもと、町内外からの応援をいただきながら町民自身が主体的に関わりを持ち、住みよい暮らしとなるよう様々な事業に取り組んでいます。



代表理事 渡邊 清

再生・復興への足音

震災から8年。避難指示解除から3年半。ならはみらい発足から4年。今、檜葉の町に力強い足音が聞こえてきました。

笑ふるタウン・商業施設の賑わい、町民交流の拠点・交流館の活動。ならはスマートインターの開通、ならはスカイアリーナのオープン、Jヴィレッジの全面再開と同駅舎の供用開始。そして、道の駅ならはの再開も間近となりました。

ならはみらいは皆様とともに、これら基盤の上に、未来につながる新しい風をおこしてまいります。これからもご理解、ご支援をお願い致します。



専務理事 蛭田 勇成

「ならはみらい」とともに。

平成26年6月に発足した「ならはみらい」。この間、3度の事務所移転、大きな役割を果たし果立っていった職員、夢を抱いた多くの有望な人材の入社。そして、現在、職員一丸となり、各種の事業に取り組んでおります。

町は復興・再生へ向けて着実に前進し、日々「檜葉町」という存在を確かなものにしていきます。私達「ならはみらい」も、これらの動きに適確に応じ、皆様の信頼に応えて参りたいと考えております。今後ともご理解とご支援をよろしくお願い致します。



顧問 石崎 芳行

檜葉町、そして双葉郡の力に。

平成31年度より「ならはみらい」の仲間に入れて頂き、大変嬉しく光栄に思っております。檜葉町の発展に少しでもお役に立てるよう全力を尽くして参ります。併せて、双葉郡・浜通りの素晴らしさを多くの皆さんに知って頂けるよう走り回って参ります。町で見かけたら気軽にお声を掛けて頂ければ嬉しい限りです。これからも末永くよろしくお願い致します。

“みんなが笑顔になれる商店街”を目指して！

商業、交流ゾーン全体の美観を維持向上させ、施設の来訪者に再び訪れたいと感じてもらうための空間づくりをしています。平成30年度は、商業・交流施設をゾーニングした年4回のイベント等を実施し、“来てもらい”“知ってもらい”“賑わいを創り出す”ことにより、商業施設が交流の場となるように、管理運営してまいりました。引き続き大勢の方に気持ちよく利用していただけるよう努めてまいります。



ここなら笑店街(しょうてんがい)

檜葉町の商業施設「ここなら笑店街(しょうてんがい)」は、平成30年6月26日にオープンしました。国道6号線沿いの便利な場所に立地しています。スーパー、ホームセンター、飲食店、カフェ、ベーカリー、理容室、クリーニング店等、10店舗が入っています。

一般公募によって「ここなら笑店街」という名称に決定し、“ここならは(檜葉) 笑顔あふれる商店街 みんなが笑顔になれる商店街”そんな施設になってほしいという願いを基に、避難指示解除から町を支え、定着してきた仮設店舗“ここなら商店街”の形を残して次のステップへ進めるよう想いが込められています。

イルミネーション点灯式 2018.12.22



平成30年12月22日には、ここなら笑店街中央広場でイルミネーション点灯式が開催されました。イルミネーション点灯式は、町民の皆様楽しんでいただけるように企画し、テナント会会長の根本社長が自らサンタになり、ここなら笑店街のイベントを大いに盛り上げました。ここなら笑店街の各テナントでは、マリデカフェによるゆず茶のふるまい、豚彦による豚丼の販売、アルジャーノンによるピザ・ラスクなどの特別メニューの販売を行い、来場者を楽しませました。

みんなの第2の家、ならはCANvasから町内に活気を！

平成30年7月30日、「笑ふるタウンならは」内に、大きな屋根と開放感のある窓が印象的なみんなの交流館ならはCANvasがオープンしました。ならはみらいは、「ここなら笑店街」と合わせて指定管理を受け、日常の管理や貸館業務に加え、新たな利用者の獲得や利用者同士の交流を目的としたイベントを開催しております。

「交流館ってなに？」

開館後もこのような声が聞こえて来ます。檜葉町では、町民の皆様に加え、檜葉町に関わる方々にもご参加いただける交流館を考えるお茶飲みワークショップを全9回に渡り開催し、参加者のみなさんに語っていただいたふるさとへの想いを基にこの施設を設計しました。檜葉町に暮らす方はもちろん、離れて暮らす方も、町外の方も...世代や立場を超えて誰もがこの場所で出会い、交流し、その中で様々な動きが生み出されていく場所として、「みんなの大きな家」をイメージしてつくられた施設です。



展示 趣味のサークル 会議 キッズスペースで遊ぶ！



持ち寄りランチ

開館して月日を重ね、自分なりに工夫して利用する方々が少しずつ増えてきました。中には毎月趣味のサークルで部屋を借りて活動し、ついでにその日できた作品をそのまま交流館に飾って帰ろう!という方もいます。お買い物と合わせて来る方、県外から震災・復興のことを知ろうと来町された方など、多くの人が立ち寄り交流館の特徴を活かして、作品をたくさんの人に見ていただいています。その他にも、「仮設住宅に暮らしていた時の友達と会おう!」「老人会の会議で使ってみよう!」「キッズスペースで子どもを遊ばせるついでに笑店街でお昼を買って交流館で食べていこう!」などなどみなさんの暮らしにあった形で利用されています。

交流館は自由な施設です。みんながやってみたいことを実現できる施設でいられるようにという想いからです。

たくさんの方が利用することで、情報や文化が集まる場所になっている交流館。商業施設と隣接しているから、誰もが日常的に利用できてちょうどいい。建物に入りにくいというお声もいただいているので少しずつ工夫をしていきたいと思っています。「こんなことやってもいいのかしら?」「やってみたいことがあるけど自分たちだけではできないことがある...」まずはならはみらいにご相談ください。一人ひとりの小さな行動を増やして、まち全体が元気になることを目指しています!

檜葉への想いをまちのチカラに！ 活動拠点も提供 継続的な交流をサポート

ならはみらいでは平成28年度より檜葉町から委託を受け、交流人口を拡大するための各種事業を行ってきました。震災及び復興に関する現状説明、町が有する魅力の体験や情報発信、町民との交流の場の創出等を目的に、学生対象のスタディツアーをはじめ、町外イベントへのブース出展、町外からのボランティアの活動拠点の提供などを実施。再生と新生の道を歩む檜葉町の“今”を伝えてきました。平成30年度は交流のみにとどまらず、地域や地域の方々と多様に関わる“持続的な繋がり”を目指し、「檜葉町で何かをしたい」という想いをカタチにできるような事業を企画するなど、新たなチャレンジをスタートさせました。



講師を務めた木戸川漁協の鈴木謙太郎さんⓉと参加学生



藤沢市商工会議所女性会と町民が花植え活動を通して交流

花植え交流会

神奈川県藤沢市の藤沢商工会議所女性会とは、震災及び原発事故に伴う避難町民の受け入れを機に、継続的に交流を続けてきました。平成30年度は、藤沢市のイベントで実施したチャリティバザーの売上金を檜葉町に寄付したいとのお話をいただき、同会が当初より予定していた研修視察に合わせて、町内ツアー及び町民と花植え交流会を企画。復興の道を歩む檜葉町の“今”に触れていただき、交流の深化を図りました。

スタディツアー

檜葉町に興味関心のある学生を受け入れてきたスタディツアー。平成30年度は学生が檜葉町で感じ、考えたことが、主体的な取り組みに発展していくことを願い、ツアー名を「ならは“結”iversity」(「ならは“ゆい”バーシティー」と命名。木戸川漁業協同組合の課題解決を学生の目線で考え、発表するというプログラムを2回コースで行いました。学生は木戸川の鮭を自分事として受け入れ、檜葉町への愛着がより深まったようでした。



檜葉町で農作業にチャレンジする「そよ風届け隊」

そよ風届け隊

立命館大学の学生団体「そよ風届け隊」は、檜葉町を拠点に様々な活動を行っています。平成30年度は松館地区の方々との協働のもと、稲作のお手伝いや休耕田を活用してジャガイモ栽培などにチャレンジしました。ならはみらいも「そよ風届け隊」の活動をサポート。町民からお借りしている民家「みらいハウス」を宿泊施設として無償で提供し、継続的な活動のお手伝いをしています。
 〈平成30年度みらいハウス利用実績：165人泊(利用者71名)〉



3人の女子大生が短期研修(インターン)に！

短期研修(インターン)

私たちはこれまでも全国の大学生を対象にしたスタディツアー実施やボランティアの活動をサポートしてきました。平成30年度は初の試みとして1ヶ月間の「短期研修生」を受け入れました。



新潟の大学から2名、山形の大学から1名の女子大生に参加いただきました。彼女たちに与えたミッションは「檜葉町の新たなつながりをつくること」です。目に見える復興が進む一方で、仮設住宅の供与が終了し、震災前とは違う檜葉町での新たな暮らしが始まっています。その暮らしが人とのつながりを感じることができるものになればという想いから活動していただきました。

インターン生は、主に中満南住宅団地の方々を対象としたイベントをきっかけに、まず自分たちを知ってもらうことから活動をスタート。その後、実際にお話を聴くことで町民の皆さんの想いに触れました。「人との繋がりが感じられるほど、暮らしが楽しいと感じる」という内容を聞き取り、コミュニティの大切さを改めて証明してくれました。

ひと。ならは31人の“生”の物語

この取り組みは、学生が檜葉町に関わる様々な立場の31人の方にインタビューをし、その内容を一枚の作品にまとめる「ならは31人の“生”の物語」プロジェクトです。きっかけは平成27年9月5日に遡ります。避難指示解除を前に、檜葉町の方々は「戻る」「戻らない」など様々な選択に迫られ、心が落ち着かない日々が続きました。そんな中、目に見えない、そして常に変化する「人の想い」に寄り添い、それをかたちにし、遺したい！そんな想いからスタートしました。



4年間で計50名以上の学生が物語の制作に携わってきました。何度も檜葉に訪れる学生、社会人になっても檜葉に遊びに来てくれる方、檜葉に移住した方など、この取り組みをきっかけに様々な形で檜葉に関心を持ち関わり続けてくれています。



仮設住宅を出て町に戻ってきた、商業施設ができた、新たに檜葉町に移住してきた、震災から8年経っても変化した続ける檜葉町。参加した学生たちは、未だ激動の最中にある檜葉町の見えない声に想いを馳せてきました。貴重な経験を積んだ若者がこれからの社会をつくっていく日も近いでしょう！



ならはふるさと案内人

ならはふるさと案内人は、榎葉町のあの時、あの時、今、そしてこれからを伝える活動をしています。町外から視察に来られる方に関心をもってもらい、つながりを築ききっかけとなることを目指しています。



平成30年度は、41団体が利用し、計1,013名の方が榎葉町へ視察に来ていただきました。近年は海外の学生も榎葉町へ視察に来られます。主に視察場所は、道の駅ならは、Jヴィレッジ、除染仮置き場、笑ふるタウン、みるー天神、洋上風力、竜田駅、榎葉小中学校、木戸川漁協等を視察します。

平成30年度から多くの視察希望者に対応できるよう案内人を3名増員し、計6名で受け入れをしています。視察者の中には、「こんなに復興が進んでいると思わなかった」という方もいます。今後も日々変化していく榎葉町を見届けると共に、全国の皆さんに榎葉町の「あの時」を伝え、そして自身の目で見ていただき、榎葉町の「今」を伝える取り組みを続けていきます。

藍染めでコミュニティを活性化！

ならは藍染め会

ならは藍染め会は平成28年から活動を開始し、3年が経過しました。榎葉まなび館で藍を育成し、育てた葉を揉み、染色作業まですべての工程を町民の手で行っています。

募集 ならは藍染め会：会員募集

ならは藍染め会では随時会員を募集しています。藍染めに興味がある方、新たな趣味を見つけたい方、仲間内で集まって楽しく活動したい方など大歓迎です。ならはみらいでは藍染め会の活動のサポートをしています。興味のある方はお気軽にご連絡ください。



お母さんにスカーフをプレゼント

12月、1月には神奈川県松田町寄地区の方々に講師に招き「絞り染め」の講習を実施。新たな会員も加わったことから改めて技術を学びました。針と糸を使って縫い上げて模様を出す難しい技術ですが、絞った布をいざ染めてみると、きれいな模様と一緒に会員の皆さんにも笑顔が浮かび上がりました。

平成30年度は新たに榎葉町役場住民福祉課との協働で、新生児のお母さんに藍の生葉で染めたシルクスカーフをプレゼントしました。このスカーフには榎葉町の町民として新たに生まれた子どもとお母さんを地域住民がやさしく見守るというメッセージが込められています。記念に手渡しさせていただいたお母さんには大変喜んでいただきました！

榎葉を元気にするきっかけづくりを！

榎葉町活性化協議会

平成29年4月に設立された榎葉町活性化協議会は、町内の企業・団体が連携し、まちの活性化に向けた横断的な取り組みをしている組織です。

参加団体(13団体)

榎葉町商工会・観光協会
 榎葉町社会福祉協議会
 榎葉町老人クラブ連合会
 木戸川漁業協同組合
 株式会社Jヴィレッジ
 榎葉町食生活改善推進員会
 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライト
 社会福祉法人広葉会特別養護老人ホームリリー園
 一般財団法人榎葉町振興公社
 JA福島さくら榎葉支店
 社団法人南双広域シルバー人材センター
 一般社団法人榎葉町スポーツ協会
 一般社団法人ならはみらい
 (平成31年3月時点)

活性化協議会では、ならはお役立ちカレンダーの発行をおこないました。仮設住宅の供与が終了し、町内外でのそれぞれの暮らしが始まる中で、イベントや趣味を通じた集いの場に一人でも多くの方にご参加いただけるよう、情報をとりまとめています。

また、新たな取り組みとして「榎葉散策マップ」も作成いたしました。町内の飲食店や施設、絶景ポイント等をまとめた町外からの来訪者向けの地図で、榎葉町に訪れる方により町の魅力に触れていただきたいという想いが込められています。



ならはお役立ち カレンダー

ふるさとに集い、繋がり、楽しい時間を過ごすきっかけになればと思いイベント等の情報をまとめたました。

花で地域のつながりを！

花植え活動

ならはみらいでは春と秋の年2回、町のクリーンアップ作戦に合わせて行政区や小中学校と協力して花植え活動を行っています。町内の環境美化と、地域コミュニティ創出による町民の皆さんの生きがいづくりが目的です。年々参加者も増え、花を通して地域のつながりが生まれています。



平成30年度の行政区における花植え活動は6月と9月に行いました。6月は11、9月は12の行政区に参加いただき、たくさんの方で、たくさんの方で、色鮮やかに彩りました。現在は榎葉町を離れている町民の方が地元に戻って活動に携わったり、立地企業の従業員の方も参加するなど、新たな協働の形も生まれています。

小学校では春と秋の2回、中学校では秋に1回の花植え活動を実施。多くの町民の方にも参加いただき、世代間交流の場としても貴重な機会となりました。子どもたちは町民の方のアドバイスに耳を傾け、共に土とふれあいながら、ふるさとへの愛着を深めていました。

PICK UP 今号の一枚

作品のテーマは「嫁入り」 市町村対抗コンクールで2年連続の金賞受賞

「ふるさと楡葉のために何かをしたい」という想いを持つ町民の皆さんが制作している“かかし”。楡葉町をPRする“顔役”として、イベントにも引っ張りだこです。平成29年度には平田村で開かれた市町村対抗かかしコンクールで最高賞の金賞を受賞。平成30年度は「嫁入り」をテーマに、構想から1年以上をかけた力作を出展し、見事に2年連続で金賞を手に入れました。



平成30年度の金賞受賞作品
「楡葉町から平田村にお嫁にきました。」

NEWS お知らせ

お知らせ 町民の皆さんへ

波倉メガソーラー太陽光発電の収益について
楡葉新電力合同会社による波倉メガソーラー発電所が平成29年11月に竣工し、運用が開始されました。現在は順調に売電され、その収益はまちづくり会社として今後20年間、町民の皆さんに還元するような事業を進めていきます。

お知らせ 生活再建コールセンター：ハウスクリーニング補助について

ならはみらいでは、屋内片付けや除草の申込み、空き家・空き地のマッチング等、町民の皆さんの生活再建のため、様々な受付業務を行う「生活再建コールセンター」の窓口をしています。（楡葉町より受託）平成31年度より受付内容が一部変更となりました。また、屋内清掃の補助制度があるハウスクリーニングの受付は6月までとなります。ハウスクリーニングを検討されている方はお早めにお申し込みください。詳しくは下記の問い合わせ先までご連絡ください。

生活再建コールセンター

TEL:0240-25-8111

耳より情報 交流館のニュースをお届け！

ならはみらいでは「みんなの交流館ならはCANvas」の日々の出来事やイベント告知などをまとめた交流館だより「CANvas LIFE」を毎月発行しています。利用者のアンケート結果など交流館のフレッシュなニュースを詰め込んでいます。是非、そちらもチェックしてみてください！



MIRAI ならはみらい事務局職員紹介



事務局長：永山 光明（ながやま こうめい）

#山田岡出身
#健康志向
#日課：朝の散歩（冬季を除く）

管理本部

主に経理・総務や企画等を担当。まちづくり会社の基盤を支えます。



事務局次長兼管理本部係長：西出 貞善（にしで さだよし）

#埼玉県出身
#ならはみらいきっての個性派
#嫌いなもの：チーズ



主任：牧ノ原 沙友里（まきの はら さゆり）

#井出浜出身
#和太鼓歴16年
#猫好き



木村 由香（きむら ゆか）

#北田出身
#2人の子どものママ
#イノシシにプランターを壊されたのが悔しくて
狩猟免許（罟）を取得

業務部

主に「まちづくり」に資するならはみらいの各事業の企画、実施を担います。



係長：平山 将士（ひらやま まさし）

#いわき市出身
#元新聞記者
#趣味：マラソン、晩酌



西崎 芽衣（にしざき めい）

#東京都出身
#1人の夫の妻
#巨大ウーパールーパーを買っています（体長約22cm）



森 雄一朗（もり ゆういちろう）

#群馬県出身
#元銀行マン
#ならはみらい一番の若手

施設管理部

主に笑ふるタウン内にある、商業施設・交流施設の管理運営を担います。



係長：木村 英一（きむら えいいち）

#山田岡出身
#3人の子どものパパ
#仕事熱心。でも実はお茶目。



係長：竹之内 啓文（たけのうち ひろふみ）

#群馬県出身
#料理上手
#趣味：美味しいラーメン屋さん探し



窪田 浩二（くぼた こうじ）

#山梨県出身
#猫好き
#好きなもの：甘いもの



伊藤 紘輝（いとう ひろき）

#北田出身
#3人兄弟の真ん中
#嫌いなもの：野菜、虫

発行者・問い合わせ先



一般社団法人ならはみらい

住所：〒979-0604 福島県双葉郡楡葉町大字北田字中満260番地 みんなの交流館ならはCANvas内

電話：0240-23-6771 FAX：0240-23-6772

Mail: info@narahamirai.com

Web: https://narahamirai.com